

パネルディスカッション

関西発展の起爆剤・2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)
～その実現と可能性～

パネラー

坂 茂氏・更家 悠介氏・溝畑 宏氏

コーディネーター

生駒 京子氏

(関西経済同友会代表幹事)



生駒 京子氏



大阪を出港し世界一周して2025年大阪・関西万博に戻ってくるポリマ号
ブルーオーシャンプロジェクト

【会場】 セントレジスホテル 大阪市中央区本町3丁目6-12 TEL.06-6105-5647

【アクセス】 地下鉄御堂筋線「本町」駅／7番出口すぐ

申込み先

(一社)生産技術振興協会 事務局

下記ウェブページの参加申込みフォームよりお申し込みください

URL: <http://seisan.server-shared.com/>

新春トップセミナー

ブルーオーシャンプロジェクト

～2025年 大阪・関西万博のパビリオンを通じて考える～

- 会 期 2023年1月25日(水) 午後4時～6時(開場午後3時半)
- 会 場 セントレジスホテル 大阪市中央区本町3丁目6-12
- 会場定員 50名(参加費:5,000円) ● オンライン 500名(無料)

- 申込先 下記ウェブページよりお申込み下さい。
URL: <http://seisan.server-shared.com/>

講演1

作品づくりと 社会貢献の両立を目指して

慶應義塾大学教授/坂茂建築設計 坂 茂氏



講演2

ブルーオーシャンプロジェクト

サラヤ(株)社長/ゼリ・ジャパン理事長 更家 悠介氏



講演3

2025年 大阪・関西万博を 関西発展の起爆剤に

(公財)大阪観光局 理事長 溝畑 宏氏



● パネルディスカッション 関西発展の起爆剤・2025年 日本国際博覧会

関西経済同友会代表幹事 生駒 京子氏 (コーディネーター)

主催: (一社)生産技術振興協会

共催: (公財)ブルーオーシャンファンデーション・(一社)大阪大学工業会

後援: 大阪商工会議所・(一社)関西経済同友会・(公財)大阪観光局

ブルーオーシャンプロジェクト

～ 2025年 大阪・関西万博のパビリオンを通じて考える ～

講演 1

作品づくりと社会貢献の両立を目指して ～未来のための実験としてのパビリオン建築～

坂 茂氏

1957年 東京生まれ。
1984年 クーパー・ユニオン建築学部。
1985年 坂茂建築設計を設立。
1995年から国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) コンサルタント。
フランス建築アカデミーゴードメダル、日本建築学会賞作品部門、
フランス芸術文化勲章、マザー・テレサ社会正義賞。
2014年 プリツッカー建築賞受賞、スペインで最も権威のある
アストurias皇太子賞平和部門など数々の賞を受賞。
慶應義塾大学環境情報学部教授



(講演内容)

会期を限定した仮設建築が求められる万博において、建物解体時にほとんどの材料をリサイクルまたはリユースすることで、産業廃棄物をできる限りゼロに近づける素材の選択と、工法が求められる。コンクリートなど、リサイクルできない材料は使用せず、基礎に仮設用の鉄骨を採用するなど、産業廃棄物の発生を、徹底的に削減する。解体が容易な施工方法とすることで、万博終了後には、本パビリオンそのものを移築・再利用ができるように計画する。構造部材にも工夫が凝らされている。直径45mのドームのメイン構造は日本初となるCFRP (Carbon Fiber Reinforced Plastics =炭素繊維で補強・強化されたプラスチック) という、これまで飛行機や車のボディに使われていたが、建築の主体構造としてはこの規模で世界初となる建築となる。また、サブドームは再生紙の紙管構造と竹集成材の構造を使う。

この講演では、パビリオンの説明に加え、さまざまな建築作品をつくるのと同時に、建築を通じて災害支援活動との両立の試みを紹介する。



1995年の地震で家を失った人々のための、神戸の仮設住宅「紙のログハウス」 ©作間敬信

講演 2

ブルーオーシャンプロジェクト

更家 悠介氏

1951年 三重県生まれ。74年大阪大学工学部卒業。
1975年 カリフォルニア大学バークレー校修士課程修了。
日本青年会議所会頭などを歴任。エコデザインネットワーク副理事長、
ゼリ・ジャパン理事長、大阪商工会議所常議員、ボルネオ・保全トラスト理事、
日本WHO協会副理事長、在大阪ウガンダ共和国名誉領事などを務める。
2010年 藍綬褒賞。2014年 渋沢栄一賞受賞
著 書 プラスチック革命 I・II (日経BP) 地球市民革命 (日経BP)



(講演内容)

海洋のプラスチック汚染を世界で初めて本格的に調査するために、2015年に科学環境探索プロジェクト「レース・フォー・ウォーター」プロジェクトが立ち上がりました。マイクロプラスチックのスープは海の中へと流れ込み、海洋循環に沿って流れていきます。海洋汚染の解決策は海ではなく陸にあることが分かりました。このプロジェクトで、地球規模の真の環境災害であるプラスチック汚染から海洋を保全する解決策を提供するために、5年間で世界を巡る大航海へと出発しました。このプロジェクトは、水と海の保全に特に力を注いでいます。今日、海はプラスチック汚染の脅威に直面しており、生命に欠かせないこの資源である海を我々は守られなければなりません。プラスチック廃棄物に付加価値を与え、それらの回収を促進する社会的モデルやビジネスモデルを開発することにより、プラスチック廃棄物が水路や海洋に流入することを防止します。我々は、今回の博覧会で、LEARN(研究) - SHARE(共有) - ACT(行動)を世界の方々と共有することを目指します。

講演 3

2025年大阪・関西万博を関西発展の起爆剤に ～「国際観光文化都市 大阪」を実現するために～

溝畑 宏氏

1960年 京都府生。1985年東京大学法学部卒業、自治省入省。
2002年 大分県企画文化部長。2004年 (株)大分フットボールクラブ代表取締役。
2008年 Jリーグナビスコ杯優勝。2010年 国土交通省観光庁長官。
2012年 内閣官房参与、大阪府特別顧問、京都府参与。
2015年 大阪観光局理事長 (大阪観光局長)。大阪府都市魅力戦略推進会議 委員。
2017年 大阪府・大阪市 IR 推進会議 座長。大阪・関西スポーツツーリズム&MICE
推進協議会 会長。
受賞歴 2012年1月 経済界大賞。
2021年2月 WEIBO ACCOUNT FESTIVAL IN TOKYO 2020 ベスト観光都市賞
著 書 日本列島観光論 逆転こそ、Nippon! (講談社)
爆走社長の天国と地獄 (小学館)



(講演内容)

大阪は2025年の大阪・関西万博の開催やその先のIR施設の開業を2029年までに想定しているほか、新大阪駅と関西空港を繋ぐ鉄道網の建設などの計画が目白押しであり、大阪は「新しい日本の顔」として、世界中からの注目が年々高まっております。そのような中、大阪観光局は観光をはじめとし、都市・経済・文化の政策として様々な地域の魅力を創っていく「司令塔」としての役割を担い、国際観光文化都市としての「日本観光のショーケース」となることを目指します。そのためには、2025年の大阪・関西万博を起爆剤にする必要があります。万博閉幕後も、そこに残されたレガシーを活用し、幅広い産業と連携し、魅力あるコンテンツを創出していきます。また、各分野の専門家が集まり、高付加価値 MICE・イベントの誘致など、先進的な取り組みを推進してゆきたいと考えています。

世界が憧れる「住んでよし、働いてよし、学んでよし、訪れてよし」の大阪を創りあげ、2025年の大阪・関西万博を成功に導き、限りない可能性を持つステージで、われわれの事業、夢、希望を是非、実現しましょう。